（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

２０２３年度（令和５年度）学校評価自己評価表

神辺東中学校区	校番　76	福山市立御野小学校
	最終更新日	2023 年(令和５年) １０月１日

Ⅰ　福山市

ミッション　福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

- 各校ともに教職員が一丸となって学力課題の改善へ向けた重点取組が進み,子どもたちの意識が変化している。
- 教職員のやりがいや充実感を基盤に，小中間で学力の伸び調査などにみられる課題を共有し,ICT を活用した授業改善等により基礎学力の定着を期待する。

児童生徒の現状

- 目標を持ち，学校生活全般に渡り，主体的にがんばることができ，全体的な規範意識は高い。
- 授業では協働的な学習に積極的に取組んでいるが，意見の練り合いや合意形成，表現のスキル等が十分でない。また，基礎学力の定着にも課題がある。

育成する力 (21 世紀型“スキル&倫理観”)	問題解決能力・コミュニケーション力・意思決定力
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し,「なりたい自分」を目指し，自分の人生を選択し，自分らしく表現することができる。
中学校区として統一した取組等	・子どもがわくわく感をもって課題を探究し，自分らしく表現する子どもの学びの創造 ・「あいさつ」の大切さを実感し，家族や友達，教師や地域に向けて実践する力の育成 ・主体的な学びに係る「ふるさと学習」・SDGS・ICT 活用による改善 ・「家庭学習」における子ども主体の学びの推進のための発達段階に応じた取組の明確化と実践 ・「体力向上」に向けた子ども主体の取組の推進

Ⅲ　自　校

ミッション

「地域の宝」となる子どもを育成する。
○児童の学びの場を充実させ，児童に学力をつける。
○児童に当たり前のことが当たり前にできる自立の力をつける。
○地域と進んで関わり，地域から学び，地域のために役立ちたいと思う気持ちを育てる。

学校教育目標

自ら学び，人間性豊かで，たくましく生きる子どもの育成

現　状

＜児童生徒＞
○明るく素直で真面目な生活態度で，決められたことは守ろうとする児童が多い。「御野しぐさ」として全校でよい行いをしようとする意欲がある。自分の考えを持つことはできるが，全体へ向けて説明したり表現する力をつけたりする必要がある。
○「全国学力・学習状況調査」等から基礎学力は徐々に定着しているが,各教科を関連付けて考えたり，活用したりする力に課題が見える。既習の知識や技能を関連づけながら，新たな価値や答えを発見していく学びを楽しむ児童を育てていく必要がある。
＜授業＞
○子ども主体の学びづくりについて，生活科と総合的な学習の時間を核にした，総合単元的な単元構想を工夫することに取り組んでいる。更に各教科の「見方・考え方」を意識し関連させ,学習意欲を高める「問い」の工夫、児童の思考を促す授業づくりに取り組む必要がある。
○ICT を適切に効果的に位置付けて,全ての子どもが自分に合った学習方法を選択・決定し，主体的に学ぶ授業づくりに取り組む必要がある。

育成する力 (21 世紀型“スキル&倫理観”)		問 問題解決力　コ コミュニケーション力　意 意思決定力
めざす子ども像	問	・自分で，みんなで，取り組む中で，課題に向けて調べたり，他教科と関連付けたり解決方法を考えたりと,主体的に解決の形を考えることができる。
	コ	・自分の夢や目標を語り，他者と進んで関わり,互いのよさを認め合うことができる。 ・様々な表現方法で,自分のことや考えを伝えることができる。
	意	・「やってみよう」とする意欲をもち，自分の行動を自分で決定することができる。
研究	テーマ	「わくわく感をもって，課題を探求し，自分らしく表現する児童の学びの創造」 ～児童が進んで考え　選び　表現する　主体的な学びづくり～
	内容等	・児童の「なぜ？」がつながる授業展開や単元構成を工夫することで，わくわく感をもって考えたい，できるようになりたい，わかりたいとチャレンジしたくなる授業づくり ・教科の「見方・考え方」を働かせ，子ども主語・教材主語を意識した教材研究をすすめる ・児童が自分に合った学び方を自分で選択できるよう,個に応じた効果的な支援を行う教師の役割
めざす授業の姿		○児童自らが「問い」を見つけ，他教科と関連付けたり,「なぜ」について探究したりしている授業 ○教科の「見方・考え方」を意識し,児童が主体的に「学びが面白い」と生き生きと学ぶ授業 ○児童が自分に合った学習方法を選択・決定し,主体的に学び表現している授業

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	知 「子ども主体の学び」づくりを推進し，「学びが面白い」と実感する児童の育成	★	継続	・児童がチャレンジできる場を設定し,自ら「問い」を見つけ，主体的に探究する授業の推進	・児童の「なぜ?」がつながる授業展開や単元構成を工夫する。 ・基礎学力の実態を把握し，個に応じた多様な支援の実施 ・各教科の「見方・考え方」を働かせ，児童が何につまずくのかを予想し,児童の思考を促す「問い」と「資料」を工夫する	・「国語科・算数科・社会科で考えることが楽しい」児童８０%以上 ・国語科算数科の単元末テスト６０点未満の児童を２０%未満 ・各教科の「見方・考え方」を意識し，「問い」にこだわるみるやるみせる授業の実践１００%（1単元以上/学期）	・「国語科・算数科・社会科で考えることが楽しい」児童は82.7%であった。 ・国語算数の単元末テスト60点未満の児童を20%未満では国語は13%で算数は14%であった。 ・国語や社会科を核に,「みるやるみせる授業」を実践100%。御野小スタンダードを作成	３	３	・総合・生活科を核に関連させた，単元構造図の資料や問題との出合わせ方の見直しを図り，児童が考えたくなるような単元構成を工夫する。 ・授業改善シートに児童が何に躓いているのか支援方法を明記して，学校全体で毎月の進捗状況を把握し PDCA 化する。 ・児童が考えたくなる「問い」にこだわり週に一度の教材研究の充実を図る。					
				・自己表現力の向上	・様々な方法で自分の考えや思いを表現する活動や場の設定	・学校教育活動のあらゆる場面で書く・話す活動を位置づけ，学期に１回以上他学年や地域へ表現活動を発信	・学校教育活動のあらゆる場面で書く・話す活動を位置づけ，他学年や地域へ表現活動を発信では 66.7%であった。	３	２	・児童が様々な方法で表現できる選択肢を与え，児童自ら考えたくなる仕掛けづくりを行う。					
	徳 自分も他人も大切にする心情の育成	２	継続	・一人ひとりを大切にした学級経営を実施，児童が互いに認め合える関係の育成	・個の実態や状況に応じた登校方法・学習活動の実践し，丁寧な保護者連携 ・児童会行事等で異学年と交流する機会を通して，他人に感謝や尊敬の気持ちを育成	・不登校傾向児童の減少（感染症等出席停止を除く欠席数による）と出席率の増加。	・１学期の欠席状況のうち不登校傾向として新規の児童が挙げられたが，不登校傾向の人数の増減は前年度と同じだった。	３	３	・教室へ位置付けている児童が多くなった。個に応じた支援環境を整え，「自己決定・選択」を重視し，セルフマネジメント力や自己肯定感の向上につなげていく。また，家庭との連携を大切にする。 ・児童一人一人の自己有用感が高ま					

										る学級集団となるように自分の「よさ」を自覚できるよう周囲が評価し，他人の「よさ」を認められるような学級活動を工夫する。					
		２	継続	・地域に学び，地域を大切にした学校づくりの推進	・地域と連携した神辺ふるさと学習を各教科で計画・実施。	・「御野の人・もの・ことを大切にしたいと思う。」肯定的な評価９０%以上	「御野の人・もの・ことを大切にしたいと思う。」肯定的な評価９８%だった。	３	３	・各学年の学習内容に応じて地域の方との関わりや「ふるさと学習」として年間の学習カリキュラムに位置付けており，地域の方々にお世話になっていることを意識することで，地域全体に支えられている実感を持てるようにする。					
２	体 子ども主体の体力づくりの推進		継続	・児童主体で体力向上に取り組む。 ・新体力テストにおいて，県平均値を超えている割合を５０%以上	・体育の授業，児童会や委員会，たてわり班活動などで，児童がしたい遊び・運動の実施	・体育の時間や外遊びで体を動かすことが好きな児童を９０%以上	・「体を動かすことが好き」児童は８８．７%であった。 ・雨天時の休み時間に体育館を開放し，児童が主体的に遊ぶ場を設けた。 ・新体力テストにおいて県平均値を超えている割合が４５%であった。	３	３	・体育行事やなわとびなどの達成目標を明確にし，体力向上において児童が主体的に取り組めるようにする。 ・体つくり運動に取組んだのち１０月に県平均値未満の項目の再測定を行う。					
２	小中連携を含む学校における組織マネジメントの向上		継続	・中学校区の課題を明確にし，小中連携の推進	・小中の連携を密にし，課題を共有化・改善	・中学校区推進協議会で課題に即した３部会を年３回以上実施	・中学校区での部会を2回実施した。「中学校区の課題について共有し，改善することができた。」と肯定的に答えた職員は１００%であった。	３	３	・中学校区でそれぞれの学校の取組を交流し，参考にできるものを取入れることで，校区としての取組をさらに充実させていく。					
				・カリキュラム・マネジメントの推進	・職員一人一人が組織の一員として主体的に推進。	・カリキュラム・マネジメント・PBLに関わる研修を年5回以上実施	・カリキュラムマネジメントに関する研修を４回実施した。「主体的に働くことができた。」と肯定的	３	３	・年間計画の見直しを行い，「いつ」「何を」「どのように」動けばよいのか，一人一人が見通					

							に答えた職員は８９％であった。勤務年数が少ない職員や転勤してきた職員が肯定的に回答できなかった。			しを持って動けるようにする。 ・学年主任が主体的に動けるように，学年会を開き，進捗状況の確認や交流を行う。					
２	教職員が生き生きと働ける職場づくり	★	継続	・仕事に対する満足感や充実感の向上	・教職員の意欲・自分の専門性や強みを生かす実践	・「仕事にやりがいを感じている教職員」を９０％以上	・職員アンケート「仕事にやりがいがある」において肯定的評価は 92.3%だった。	３	３	・個々の実践の交流等により，教職員の主体的な研修を進める。					
				・時間と質を意識した業務の推進	・定時退校日を確実に実施 ・自己管理システムを実施、超過勤務の縮減	・在校時間外勤務，年間３６０時間以内の割合を昨年度以上	・定時退校日の実施率は 50%，在校時間外勤務が月 30 時間を超えた職員は昨年度より 8%改善した。	３	２	・定時退校日を100%実施し，個々の自己管理システムを習慣づける。					